

琉球大学学術リポジトリ

新科目「公共」における「在り方生き方教育」の実践と課題

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2021-04-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 晏梨 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48185

新科目「公共」における「在り方生き方教育」の実践と課題

吉田 晏梨

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

1. テーマ設定理由

平成30年の学習指導要領改訂によって、公民科の「現代社会」に代わる必修科目として「公共」が新設された。新科目「公共」と現行科目「現代社会」の内容の違いについて、まず「公共」では「予測困難な社会やグローバル化社会を主体的に生きる」ために、「社会的な見方・考え方」としての「人間と社会の在り方」についての見方・考え方を働かせることを新たに強調している。さらに内容の「A 公共の扉」の「(1) 公共的な空間を作る私たち」では、伝統行事など生徒が関わっている場面から伝統を継承することの意義について考察し、公共的な空間の中で生きる自らの役割や価値の関係を見出ししていくことが示されている。さらに、沖縄県教育委員会は「令和二年度 学校教育における指導の努力点」で、「地域の自然・歴史・文化の重視」を定めている。先人が築いてきた歴史や優れた文化に誇りを抱くようになることは、本県特有の歴史・文化を将来に向けて継承・発展させたり、県民の生活や文化の向上に繋がったりすると述べ、学校において地域の自然や歴史、文化に係る地域素材を積極的に活用する学習を推進している。これまでも学校教育全体を通して、伝統文化の受容と伝承を目的とした沖縄の伝統や文化（組踊やエイサーなど）の教材化は多くなされてきた（呉屋 2017 他）。しかし、高校公民科現代社会で扱う課題の教材化では、政治や選挙に対する関心を高め、積極的に社会に関わろうとする自覚や態度を育てようとするものが多く（斉藤 2018 他）、伝統や文化の教材化例は少ない。また、文部科学省（2009）は子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について、青年中期（高等学校）は「大人の社会でどのように生きるのか」という課題に対して、真剣に模索する時期である」と述べ、青年中期の子供の発達において重視すべき課題として「人間としての在り方生き方を踏まえ、自らの生き方について考え、主体的な選択と進路の決定」を挙げている。このことから、発達段階的にも新科目「公共」で行う「人間としての在り方生き方教育」は意義があるといえる。その際、生徒にとって身近な地域の伝統や文化を教材として扱うことで、公民的資質・能力の育成につながるような「現代社会に生きる人間としての在り方生き方」に関する自覚の涵養ができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

高校公民科「公共」において、「現代社会に生きる人間としての在り方生き方」に関する自覚の涵養に繋がるような「在り方生き方教育」の教材を開発・実践し、その成果と課題を明らかにする。

3. 研究内容

(1) 「人間としての在り方生き方教育」とは

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」では、道徳教育は学校全体で「人間としての在り方生き方」教育を通して行うこととし、特に「公共」等を中核的な指導の場面として重視するよう示されている。つまり、高等学校における道徳教育、すなわち「人間としての在り方生き方教育」（以下「在り方生き方教育」と略記）の中核的場面でもある「公共」の目標は、「社会に生きる一人の人間としての在り方生き方についての探究」を通じた公民としての資質・能力の育成と言い換え

ることができる。本研究において「在り方生き方教育」は、高校公民科「公共」において公民としての資質・能力の育成に繋がる、「現代社会に生きる人間としての在り方や生き方について深く考えることができるような道徳的要素を含んだ教育」と捉えたい。指導にあたっては、社会的な見方・考え方（人間と社会の在り方）を働かせて、社会における課題について多面的・多角的に考察する、主体的・対話的な課題解決学習活動を取り入れていきたいと考える。

(2) 主体的・対話的な課題解決学習について

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編」では、「社会との関わりを意識した課題解決的な学習」を通して、公民としての資質・能力を育成することに重きが置かれている。ベネッセ（2016）によると、公民科教員は、「グループ活動を取り入れた授業」を心掛けようとする意識が上昇しており、6年間で17.9ポイント増である。一口に「対話的な学習」と言っても簡単にうまくいくものではなく、長年協同学習に取り組むベテラン教師も多くの課題を抱えている（道田ら2019）。グループ活動はグループ内で意見を共有するのみで終わり、課題解決学習は生徒が主体的に取り組むことができず、目指す力の育成に繋がっていなかった。これは、教師が学習活動の意義を生徒に示さず目的が曖昧である点が要因として考えられる。こうした傾向は以前から指摘されており、佐藤（2014）は、グループ活動を行うことが目的となり、活動を行って満足してしまう教員が多いと述べ、伊藤（2003）は、生徒一人一人の価値観が異なる中で「生徒一人ひとりに学ぶ動機『切実さ』あるいは学ぶことへの動機づけをどのように認識させるのか」への検討が必要であると述べている。これらを踏まえて、「公共」で公民としての資質・能力の育成のために行う課題解決学習で必要とされるのは、生徒が切実性を持って取り組めるような課題設定と学びが深まるような主体的・対話的学習活動であると考え。そうすれば、生徒が目的意識をしっかりと持って主体的に課題と向き合い、対話的な学習を通して多面的・多角的に思考を再構築し、最終的に自分なりの「在り方生き方」が示せるのではないかと考える。

(3) 課題設定について

竹内（2014）は、現代的課題を克服し、社会認識と市民的資質を統一的に育成する場としての地域学習に着目し、「地域学習は本来的に社会認識と市民的資質を統一的に育成するのに最適な学習活動である」と述べている。しかし、生徒にとって「切実性を感じる現代的課題」でないと生徒は主体的に取り組まず、資質・能力の育成に繋がらない。つまり、本心から「この課題を解決したい」と思えるような課題設定でなくてはならない。そうすれば、課題解決策を考案するにあたって「自分はこう在りたい、生きたい」と自らの在り方生き方への自覚に繋がると考える。また、V.E. フランクル（1999）によると、満たされるべき意味や自分自身を差し出すべき理由、あるいは愛する人に向かって生きて初めて人は人間として生きられ、真の生きる意味が湧き出てくるという。さらに森（1979）によれば、人間は「経験」から生まれる「思想」によって、人間としての生きる態度が確立されるという。つまり、人が本心から生きる意味（自己の在り方）に関する考えが湧き出るものは「心のベクトルが大切な人々に向かうもの」であり、生きる態度（自己の生き方）について決定付けられるのは、自己の経験に基づく思想であると言い換えることができる。これらの点を踏まえると、生徒が主体的に取り組めるような「切実性を感じる現代的課題」とは、「生徒にとって大切な存在の人物が関わる現代的課題」と言える。その際、「生徒自身の経験に基づいた思想」も持って他者と共に多面的・多角的に語り合い、課題解決に向けて解決案を構築することで、「在り方生き方の自覚」を涵養していきたい。

4. 研究の方法

「現代社会」の授業にて「在り方生き方教育」を行い、振り返りシートの記述から「現代社会に生き

る自己の在り方生き方に対する自覚」の涵養の効果を検証する。加えて授業前アンケートで生徒の経験や倫理観を調査し、教材開発に活かす。

5. 授業実践（実習校 2年A,B,C組 計119名 2020年9月14日～30日）

（1）単元名 【教材：（1時間目）普天間神宮/エイサー，（2時間目）シーミー】

第2部 現代の社会と人間 / アプローチ：年中行事と通過儀礼（全2時間）

（2）単元の指導目標

社会参画を意識した「自己の在り方生き方」について具体的に示すことができる。

（3）指導の実際

実習校2年生の3クラスにて「社会における課題解決学習を通した在り方生き方教育」を「現代社会」の授業で行なった。1時間目には、伝統文化や行事の由来を学んだ後に批判的思考を働かせて継承の必要性について考えた。なお、指導に当たっては、マイノリティ意見の重要性について気付かせ、その意見から学ぶ姿勢を繰り返し伝えた。2時間目には、現代沖縄社会の課題として「シーミーの嫁姑問題」を扱い、解決策について4人1グループで意見をまとめた後、他グループから意見をもらい、再度検討することを行なった。その後、個人で「自己の在り方生き方」について考えさせ、振り返りシートにまとめさせた。その際、単元を貫く問い「幸せになるために『伝統の継承』は必要なのか」、成果を見とるための問い「あなたは将来、沖縄に残る伝統行事や文化を継承していきたいと考えますか」とし、「在り方生き方」についての自覚の見取りを振り返りシートで行なった。

（4）実践の結果

ここでは、最も大きな変化が見られたA組（40人）の結果を外観する。伝統継承について、授業後に「伝統継承したい」に変化した意見は33人（83%）、「伝統継承したくない」に変化した意見が6人（15%）であり、これは他2クラス（90%と7%、89%と5%）と比べて最も多い。さらに「自己の在り方生き方」について、「面と向かって話し合う」、「相手を良く知った上で仲良くなる」、「リモートを活用する」、「時代に合わせて変える」、「諦める」、「縁を切る」等、具体的な記述が多様な面に渡っていた。これは、自分事として捉え自分なりに考えることができた結果であるといえる。

① 生徒の振り返りシートから見る個人の変容（以下生徒の記述抜粋、下線部は筆者）

	生徒A（伝統継承したい）	生徒B（伝統継承したくない）
授業前	今まで継承してきたから、ここで断ち切るのはもったいない	やりたい人が勝手にやればいいと思うから。自分の邪魔さえしなければそれでいい。
授業後	多少トラブルがあるかもしれないが、伝統行事でしか学べないことや関われない人もいるので、そういう輪を広げるためにも継承して行った方がいいと思う。 個人を形作る上で意見をしっかりと持つというのは、とても大切なことだが、伝統行事などを通して、 <u>社会のいろんな人たちと関わる際、自分とは違う考え方も尊重することが上手く社会に適応する方法</u> なんだなと感じた。	経済活動の一環として継承するのは問題ないけど、それを感覚的な理由で押し付けるのは明らかに間違っている。 <u>個人の尊重というのはこういうところから広げていくべき</u> だと理解した。

生徒A、Bはそれぞれ伝統継承の今後についての意志は異なるものの、課題について自分事として捉えることで「他者を尊重する」大切さに気づき、「現代社会に生きる人間としての在り方生き方」に関する自覚の涵養に繋がったことが下線部の記述から読み取れる。

② 振り返りシート内コメント欄での生徒同士のやりとりから

「たぶんこれから自分が実際に体験するだろうから、頑張ろう。」や、「家族ができたときに一緒に楽しみたい」、「実際に将来はそんな余裕ないよ」など課題解決学習の課題について自分事として捉えている記述が見られた。つまり、「シーミーにおける嫁姑問題」を授業前に行ったアンケートの分析によって設定したことにより、課題解決学習で必要とされる「生徒が切実性を持って取り組めるような課題設定」に適していたため、生徒が課題解決にあたって自らの在り方生き方について自覚の涵養ができたと考えられる。

(5) 実践の課題

今回の結果から、地域素材を活用した「公共」における「在り方生き方教育」で「現代社会に生きる人間としての在り方生き方」に関する自覚を涵養できることがわかった。しかし、単元を貫く問いと成果を見とるための問いが曖昧であった点から、具体的な記述に至らない生徒も多く見られた。ある程度教師自身が問いに対して見通しを立てた上で授業構築を行い、的確な「問い」を立てる必要がある。その際、教師の思想の押し付けとならないよう配慮していきたい。

6. 今後の研究について

本稿では、主に①人間としての在り方生き方教育について、②伝統文化を活用した教材の意義について、理論研究を進めた。今後は、本研究の成果を正確に得るための③授業形態や学習方略、④問いの立て方、について理論研究を深めて実践に繋げた上で、より正確な「公共」における「在り方生き方教育」の可能性と課題について明らかにしたい。

【文献】

- 伊藤宏之，2003，「高校公民科の授業における指導の方法と内容の精選・展開について：『課題解決学習』での教師の役割とは何か」『福島大学教育学部論集社会科部門』（73），1-14.
- 呉屋淳子，2017，『「学校芸能」の民族誌—創造される八重山芸能—』森話社.
- 斉藤雄次，2018，「新学習指導要領を見据えた主権者教育としての地域課題解決型学習：高校『現代社会』における授業実践の事例から」『日本高校教育学会年報』（25），90-99.
- 佐藤浩一，2014，『学習支援のツボ：認知心理学者が教室で考えたこと』北大路書房.
- 竹内裕一，2014，「地域学習を軸とした社会科・地理教育カリキュラムの創造」『千葉大学教育学部研究紀要』（62），1-12.
- Viktor E. Frankl, 1978, *The Unheard Cry for Meaning*. (フランクル著，諸富祥彦監訳，上嶋洋一・松岡世利子訳，1999，「<生きる意味>を求めて」，春秋社，44-45.)
- ベネッセ教育総合研究所，2016，「2-1心がけている授業方法」『第6回学習指導基本調査 DATA BOOK(高校版)[2016年]』.
- 道田泰司ほか8名，2019，「協同学習の賛否に関する事例的検討」『教育学部紀要第95集』，9-16.
- 森有正，1979，『森有正全集 第12巻』，筑摩書房，7, 13, 24.
- 文部科学省，2009，「3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」『子どもの徳育に関する懇談会「審議の概要」(案)』.
- 文部科学省，2018，「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編」，東洋館出版社.
- 文部科学省，2018，「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編」，東洋館出版社.